

田舎消防の情熱

【後編・メンタリテイ】

岐阜市消防本部 藤井浩平

査察のフィールドで「ありがとう」というやりがいにはなかなか出会えないが、長く務めるこの職場が、少なくとも「楽しさ」「面白さ」「やりがい」あるものでありたい。

全部ある。

違反処理を阻害する要因として時間、人、経験等が「ない」と言われている。

本当にそうか？

①時間がない

消防が一番やりたいこと、真っ先にやるべきことをトリアージしたか。

②人がいない

整備指針の充足率にバラつきはあるにせよ、街の規模と職員数、そして違反数は相関関係にあるはずだ。

岐阜の街に名古屋のビルが全部あるわけではない。

③内規がない

組織法第1条(任務)と消防法(権限)がある。「国民を守れ」という任務を付与され、その手段として権限が与えられている。

さらに、権限の取扱説明書となる標準マニュアルまで用意されている。

④経験がない

サッカーも野球もスキーも、初めは未経験だったはずだ。

- ボールを蹴りながら生まれてくる。
- バットを振りながら生まれてくる。
- スキー板をはいた状態で生まれてくる。

そんな赤ちゃんはいない。

全ての物事が未経験から始まる。当然だ。

⑤経験者がいない

これは素晴らしいことだ。

開拓方法を論理的に否定できる者はいないということだ。

開拓者には「自由」という特権がある。

⑥幹部の理解がない

そういう、係長に情熱がないのだ。

未開拓の地を前にして、「やったことないから」と、不安そうな顔をするプレイヤーを見て、幹部が冒険を決断できるはずがない。

キャプテン(係長)自らが環境を言い訳にする

消防という仕事

理由や志は様々だが、今の職を選び、私たちは生活の大部分をこの世界で生きている。

あなたが選んだ消防という仕事は

- 楽しいですか？
- 面白いですか？
- やりがい、ありますか？

「楽しさ」はメンバー次第だろうか。

「面白さ」は知識技術を身に付けることで感じやすい。

「やりがい」はどうだろう。

市民からの「ありがとう」がそれを実感させてくれる。

チームに未来はない。

前編にも書いたが、当消防本部は「鉄の掟」を決めただけだ。

「できない」「うまくいかない」の矢印は、常に自分自身に向けておかなければ、成長できない。

環境を理由にして、無い物を新たに作ることに時間とエネルギーを費やすのではなく、「実は全部ある」「いつでも開始できる状態にある」ということに気付き、受け止める時なのだ。

消防活動の理念

災害現場で「ないものねだり」はできない。

前編で、「査察プレイヤーはファイター」だと書いた。

「今あるものを使い、今いる人で戦った」とも書いた。

「今、そこにある人と物を使って救助する」これは、消防活動の理念だ。

ターゲットを含む、鉄の掟を決めれば十分なのだ。

人が権限を使う。

査察に「ハード格差」はない。

かくいう岐阜消防も

当消防本部も5年前までは例外ではなく、

「政令市だからできるのだ」

「是正が目的であって違反処理が目的ではない」

と言い続けてきた。

「是正が目的であって～」は確かに正論だ。

今でこそこの言葉を正しく使える消防本部になったが、当時は「やらずに済ますための言い訳」として使っていた。

本当は、次に示すものこそが違反処理を阻害し続けてきた(阻害し続けている)真の要因であり、日本消防全体が抱えるこの問題の本質だ。

- 「金がない」への同情
- 訴訟や場外乱闘への不安

消防はこれらの要因、つまり、自身の弱さによって一歩を踏み出せない現実を、立入検査実施数など他の数字(パフォーマンス)でカムフラージュしてきたのだ。

「金がない」

「金銭的困難」について考えてみる。

その金銭的な窮状は、私たち予防担当者が原因かという断じてそうではない。私たちが指導する以前から「金がない」のだ。

名あて人はあたかも消防が原因で窮状に陥っているかのように主張してくるが、そこに負い目を感じる必要は全くないのだ。

実際246件の違反是正を行った結果、11件が廃業した。これに、命令違反として焦げ付いた10件(告発事案を除く)を加えたものを「本当に金がなかった事例」とした場合、その割合は1割にも満たない。

246件全ての名あて人が例外なく「金がない」「不景気だ」と言ったが、225件は「実は金があった」のだ。

彼らの言う「金がない」とは「お前たち消防に使う金はない」という意味だ。

これに惑わされることなく、命令、告発までやってみなければ「本当に金がない」かどうかなんて分からない。

「ビルを売ってでも是正してもらいます」

宿泊施設の緩降機が2台失効していた。

理論上未設置であり、ターゲットに該当する。

担当した女性プレイヤーが現場で、避難器具更新の必要性について説明すると、経営者は「是正しなかったらどうなる？」と聞いてきた。

その問いに対し彼女は

「ビルを売ってでも是正してもらいます」

(正確には、「設置できる人にビルを売ってください」)と応じたのだ。

本件は警告前に是正(一動作式緩降機2台設置)された。

「ビルを売ってでも～」

これが、違反是正の基本精神であり、同情の壁を越えてこそ発することができた名言だ。

「裁判で戦う」「週刊誌に載せてやる」

「訴訟や、場外乱闘への不安」についてはどうだろう。

「弁護士に相談している」と言われるケースは少なくない。

⊖ 違反是正

「標識なんか貼ったら損害賠償請求する」

とも言われる。

「消防にいじめられてると、週刊誌に載せてやる」

というビル所有者もいた。

名あて人と違反事実が明らかであれば

「消防が負けることはありません」

と返せば良い。

どうしても不安なら、弁護士相談事業を活用すれば不安を取り除いてくれる。

あとは、「ガッツ」だ。

当消防本部において、訴訟を提起されたり、矛先を変えて場外乱闘に持ち込まれた事案はない。

それがどうした。

違反処理体制の創成期、激動期には、プレイヤーではない者(外野)からの否定的な声もあった。

「そこまでやる必要があるのか」

「本当にできるのか」

「裁判になったらどうするんだ」

と、取組み自体を疑問視する声が多かった。

中でも印象的なのは

「違反処理しなくても是正させてきた」

「何度も通って理解してもらった」

「だから違反処理は必要ない」

という、旧担当者からの声だ。

それがどうした。

違反処理をしなくても是正できる程度の、簡単な事案であり、理解ある関係者だったということだ。

違反処理を使えば、何度も通う必要はなかったに違いない。

期限を示さなくても是正されるなら、それは相手に恵まれただけなのだ。

権限を使わず、何度も通うために他業務が遅れ、その結果超過勤務が発生したのであれば、それは税金泥棒だ。

私たちは旧手法が通用しなかった246件をはじめ、指導や説得が通じない人や事案を相手に権限を使って戦ってきた。

だから強くなれたのだ。

100%人間力勝負の領域

旧時代の人間力勝負を完全に否定するわけではない。

もっと高度にそれが必要になる時がくる。

権限を駆使しても是正できない事案

「命令違反(焦付き)」だ。

最悪なパターンは

「告発→起訴猶予→結局是正されない」

というものであり、これは避けたい。

告発を介して是正に導くには悪質性が求められる。

しかし、焦付き事案のほとんどが「是正したくてもできない」名あて人であり、使用禁止命令を発動すべき「危険」も説明できない事案が多かった。

つまり、命令後は発動可能な権限が尽き、100%人間力勝負の領域に入る場合が多いということだ。

ここからが、真の(本気の)違反是正なのかもしれない。

- 手紙を書く。
 - 市外であろうとも、自宅へ行く。
 - 名あて人の家族を説得する。
 - テナントを説得する。
 - 設備業者に分割払いを交渉する。
 - 待ち伏せる。
 - 着信拒否されれば携帯メールを使う。等考えられる(思いつく)ことを全て試す。そしてこれらを、是正されるまで続ける。
- 告発事案を除く焦付き事案の多くは、このように是正させた。

刀折れ矢尽きてからの人間力勝負は、本当に大変なのだ。

命令までは、悩まない。

「指導力があれば、違反処理は必要ない」

という考え方がある。

否定はしない。そのとおりだ。

しかしその考え方が、後輩に違反の山を残したのも事実だ。

人生経験豊富な年商1億円の社長に、消防の若きプレイヤーが人間力だけで勝つことは難しい。

人間力に頼り切った違反是正は疲弊を生み、悩みを増大させ、時間を浪費する。

これでは組織の風土として根付かない。

だから権限を使うのだ。

「ご理解いただけませんか。残念ですが、(内規で決まっていますから)命令です」

これで9割以上が是正される。

実証済みだ。

消防法の「できる規定」を、鉄の掟で「ねばならない」に変える。

ターゲットに対する命令の発動は、その違反を覚知する前から決まっている。

だから、プレイヤーは悩まない。

違反処理は消防の本気度を見せるためのパフォーマンスではない。

指導説得に苦慮するプレイヤーに、消防法は「この権限を使っているんだぞ。きっと、うまくいくから」と言っている。

違反処理体制は、プレイヤーの苦悩を軽減するための制度であり、警告や命令は、本気(100%人間力勝負)になる前に使う技術なのだ。

負け犬根性にまみれてないか

旧時代を長く過ごし、平成26～27年度の激動期を育児休業で休んだ女性職員が、昨年4月に浦島太郎の状態で復帰した。

彼女とのある日の会話を紹介したい。

K司令補、本職の先輩だ。

こんなビルはないだろうか。

- 年老いた夫婦が細々と経営している。
- 年金暮らし。
- ご近所の常連相手の小さな店だ。
- 障害があって働けないビル所有者もいた。
- 家賃収入しかない。
- 融資も受けられない。
- 個人住居が含まれる。
- 目立つ空室。
- そして、客は来ない。

彼女は言った。

「危なくないじゃん！藤井君はこの街から、こんなに小さな違反まできれいに是正させて、ものすごく安全な街にするんだという理想でもあるの!？」

なるほど、化学を専攻した理系女子。理論派だ。

市民のため、利用者のためという理屈では、確かにこの類のビルは説明がつかない。

「じゃあ、令第32条を使って免除できますか？」

「それは、できません」

そのとおり。令第32条適用のポイントは位置、構造、設備の状況だ。

- 高齢であることや
- 金がないことや
- 客が少ないことは考慮できない。

そもそも消防は、それらを斟酌する立場にない。

「じゃあ、どうします？違反として指導しますか？」

「ええ、指導はします」

「Kさん、その指導に、この問題を解決する意志はありますか？ないのであれば、それは指導ではなく、ただ紙を渡すだけの作業に過ぎない」

「…」

「そして、その作業を何年も、何度も繰り返しながらこう思うんでしょ？」

- どうせ是正はできないけど。
- とりあえず通知しとくか。
- 私たちには無理だよ。
- 東京や政令消防じゃないんだから。

「Kさん、僕らはね。東京や政令消防と同じ、消防を名乗っている。でも、彼らと同じようにできない。その歯痒さを、非番があるからとか、職が安定してるからとか、そういうつまらない理由で誤魔化して強い消防チームを指くわえて見上げて、負け犬根性にまみれて60歳まで働くなんて、僕はまっぴらなんだ」

彼女はすぐにこう応えた。

「そういうことでしたか。」

その思いは、私にもずっとあった。よく理解できました。納得したよ」

「ビルを売ってでも是正してもらおう」

違反是正の基本精神であり、女性プレイヤーの言葉として先に紹介したが、この名言は、この会話の何日か後、彼女が査察現場で言い放ってきた言葉だ。

⊖ 違反是正

負け犬根性と歯痒さ。

田舎消防で働く多くの消防職員の心の奥底で
燃り続ける火種なのではなからうか。

ハズレクジ

予防業務への異動は「ハズレクジ」だろうか。
少なくとも5年前まで、当消防本部では明らか
にハズレクジだった。

予防担当者は皆、「現場に戻りたい」と言っ
ていた。

そして彼らの言う「現場」への異動が決まると、
ガッツポーズで去っていった。

「現場へ～」しかし、「命がけの災害活動をし
たいんだ」

と言っている者は誰一人としていなかったはず
だ。

彼らの言う「現場」とは、単に、非番のある「隔
日勤務」なのだ。

だだのマニア

予防担当者は色々知っている。

たとえハズレクジだったとしても、知識だけは
身に付けてゆく。

施行令や規則に何が書いてあるか。

通知に何が書いてあるか。

消防予第何号の質疑応答で消防庁がどう回答
したか。

予防技術者検定にだって合格する。

違反是正事例研究会でテキストの事例を検討
しても、概ね的を射た回答をするじゃないか。

しかし、知っているとおりにならない目の
前の防火対象物に対して何もしない、何もしよ
うとしないのであれば、「知っているだけ」の法
令マニアだ。

- 署長の運転手を任される。
- 保安員としての安易な使役要請。
- 雑務を任される。
- 日勤の予防担当者がいない(足りない)。

予防業務や予防担当者の地位は今、極めて低
い。

昭和40年代、政令対象物で大きな火災が続い
た。消防法令が強化され、当時の予防は花形業
務だったと聞く。

その後、救助の時代が来て、救急の時代へと
移り変わり、かつての花形業務は地に堕ち、ハズ
レクジになってしまった。

ファイターであることを忘れ、マニア気質、事
務屋気質でパフォーマンスに明け暮れる「悪い
公務員」として過ごしていたのであれば、仕方が
ない。

予防消防の復権

違反是正の大義はいくつかある。

- 利用者を守る。
- 消防のメンツを守る。
- 消防隊の安全確保。

そして、

- 消防の強さ「強い消防」を内外に示し、予防(査
察)業務の価値を高めることだ。

告発を含むこれまでの取組みによって、岐阜
の街に「消防に睨まれるとまずい」という認識が
広がり始めた。

質問調書、写真撮影という基礎行動の威力が
増し、違反を是正しやすくなったと感じる。

隔日勤務の若い隊員が、査察プレイヤーに話
しかける。

「チーム査察、かっこいいよね」

「今の査察には意志を感じる」

「俺と、代わってくれよ」

消防隊、救助隊にも「査察は消防の現場」
という意識が浸透し始めた。

そう、現場なのだ。

警防や救助とは主戦場が異なるだけだ。

地に落ちていた査察の価値が、私たち査察プ
レイヤーの地位が、再び高まってゆく。

これが「予防消防の復権」だ。

「結果」で飯を食う

頑張ったけど、目的を達成できないケースが
ある。

- 頑張ったけど、救命できなかった。
- 頑張ったけど、延焼してしまった。
- 頑張ったけど、出火原因は分からなかった。

しかし査察に、

「頑張ったけど、是正できなかった」
は、ない。

焦げ付こうとも、万策尽きようとも、何年かかってでも、是正させる。

組織法第6条には「消防責任を十分に果たせ」と規定されている。

命令による公示も消防責任の領域だ。

だから、私たちは命令まで立ち止まらない。

しかしそれは最低限度の消防責任であり「十分に」とは、やはり「是正」なのだ。

「頑張ったけど」は評価対象外の世界。

是正させて初めて「よく頑張ったな」と、労ってもらえるのだ。

万策尽きたら執念を燃やす。

私たちの相手は、それこそ「結果」で飯を食う事業者だ。

私たち査察プレイヤーもまた、「結果が全て」の世界を生きる。

当然だ。「プロ」なのだから。

そこにプライドを持ちなさいと、プレイヤーには言っている。

そして、必ずその日(是正)はやってくるのだ。

僕の宝物

心に残る名あて人の言葉がある。

【①自火報設置命令違反を是正】

本件の是正には命令発動後2年以上かかった。100%人間力勝負であり、ありとあらゆるアイデアを投じた。

何度も自宅へ行ったし、万年筆を使い丁寧な文字で奥様あてに手紙も書いた。

自火報を設置した業者を通じて、ビル所有者の言葉を伝え聞いた。

「消防は2年半も粘った。あいつら、すごいよ。自宅にまで押しかけられた時はまいったな。でも俺は、消防に負けたんじゃない。

俺は、女房に負けたんだ」

その強がり嬉しかった。

ビル所有者から本職の携帯にメールが届く。

「また気軽に立ち寄ってください」

【②防火戸設置命令によって是正】

「人が死んだら設置する。命令するならしろ。こっちにも考えがある」という社長だった。



※この年の2月、この飲食店でチームの納会を開催した。誠実があれば、関係者との関係を良好に保てる。

予定どおり命令したが、すぐに標識を隠された。直後に戻って標識を復旧し指導したことが功を奏した。

社長は途端に威勢を失い、是正の意思を示したのだ。

しかし、消防にはここで仕留めきれなかった苦い歴史がある。

是正前ではあったが、本件を担当した女性プレイヤーは、一族(大人8人、子供5人)を連れて、この料理店を客として利用した。

会計の際、社長は彼女に気づくと、驚いてこう言った。

「本当に食べにきてくれたのか。

あんたにはマイツタよ。

その気持ちだけで十分だ」

査察プレイヤーは機械ではない。

プレイヤー自身が無情な(感情が無い)わけでもない。

時として感情を抑え、非情に徹することができる、温かい人間なのだ。

礼を言う社長の目は潤んでいた。

【③倉庫重大違反に勧告する際】

若いプレイヤーが勧告書を手交付する際、社長は言った。

⊖ 違反是正

「年いった職員が来たら、話も聞かずに追い返すつもりだった。でも、あんたらのような若者に言われたら話を聞かざるをえないな」

「若い＝未熟→まだまだ使えない」

ではない。

真剣な眼差しがあれば、若さそのものが、ベテランの経験値を上回る場合があるのだ。

【④自火報設置命令によって是正】

本件も標識剥がしが3度あった事案だ。

飲食店はなんとか費用を工面し、その年の11月に是正された。

年が明けて仕事始めの日、担当したプレイヤーが出勤すると、机の上に年賀状が届いていた。

「昨年は大変お世話掛けました。

今度は是非、楽しい会場として御利用下さい。お待ちしております。」

担当した2人は喜んだ。

「これは、僕の宝物です」

その年賀状を机の上に飾り、今も励みにしている。

真剣な違反是正にはドラマがある。

若さ、老練さ、男であること、女であること…それら全ての間力、良くも悪くも影響しながら是正へと向かってゆく。

違反是正とはそういう仕事だ。

査察プレイヤーに誠実があれば、命令したことによって建物関係者との関係がこじれることは、まずない。

是正とは、真剣勝負の先にある「ノーサイド」だからだ。

感動

冒頭に、「楽しさ」「面白さ」「やりがい」について書いた。

質問を変えてみる。

消防という仕事、あなたの職場に、

- 喜びは、ありますか？
- 感動は、ありますか？

1 通のLINEがある。

昨年度1年間、本職の元でプレーした若きプレイヤーが、異動に際し本職に送ってきたものだ。

「この1年は、僕の消防人生(たった10年です

が…)の中で間違いなく1番内容が濃く、やりがいがあり、確実に成長できた1年だと思います。消防に、こんなに感動できる業務があるとは思いませんでした」

喜びや感動は、「楽しさ」「面白さ」「やりがい」を超越した感情だ。

査察のフィールドには、そういうものが秘められている。

実践と結果

消防に対する国民の期待が、テレビ画面に映るハイパーレスキューであるならば、同じ消防人として、それに応えなければならない。

消防責任を果たすということは、東京消防庁や政令消防と肩を並べる(同じ水準で仕事をすることと同義ではないか。

査察のフィールドに消防職員がいる。

その職員が、権限を纏ってプレイヤーとなり、身ひとつ、人間力で挑んでゆく。

観客はいない。

市民の知らないところで、その市民のためにファイトする。

だから、市民からの「ありがとう」はない。

しかし、ノーサイドには喜びと感動があり、共に喜んでくれるチームメイトがいる。

この理想の職場は、実践と結果でしか勝ち取れない。

もう一度書く。

査察にハード格差や地域格差はないのだ。

現状を打開しようと、誰がどんなに理想や夢を語ろうとも、具体的に挑戦しなければ、それは寝言に過ぎない。

実践し、ファイトしなければ、知識や理論に価値は生まれないのだ。

メンタリティ

旧時代、予防担当者は言い訳の泥沼でボヤいていた。

- 時間がない。
- 人がいない。
- 経験がない。
- 幹部の理解がない。
- 本部予防課のバックアップがない。

- 政令消防だからできるんだ。
- 東京には人も金もあるんだろ。
敗者のメンタリティだ。
時代は変わり、現査察チームのメンタリティは、こうだ。

- ①ないものねだりをしない。
「組織法第1条と消防法があれば十分だ」
- ②フル・オリジナルの文化の形成を目指す。
「石橋を叩くのではなく、何もないうちに橋を架けるのだ」
- ③実践を第一とする。
「とにかく、やってみよう」
違反是正は自分自身の弱さとの戦いであり、それを避け続けてきた消防の歴史に挑む取り組みなのだ。

改革とは

より良くするために、何かを見てきて、付け足したり変更したりすることを改正と言うならば、改正と改革は似て非なるものだ。

旧時代から現代の査察への転換期を過ごしてみると、改革とは破壊なのだと気づく。

改革の「革」という文字の意味を調べてみると、そこには「取り払う」と書かれていた。

古い価値観や決まりごとを全て破壊した先に新たな文化は生まれる。

「破壊と創造」

それを改革(取り払って改める)という。

本市には、プレイヤーと幹部、総勢約30人による、「破壊」という凄まじいエネルギー活動があったのだ。

情熱とは

改革に必要な凄まじいエネルギー、つまり「情熱」が欲しいなら、目標設定を見直してはどうだろう。

情熱とは、目標と決意によって生まれる究極の主体性だ。

その熱量は目標の大きさに比例する。

前編に記載のとおり、当消防本部の改革は、「本当にできるのか？」と言われるほど壮大で、無謀な目標設定から始まっている。

- 細かいことでいちいち悩んだり

とにかく、やってみよう



我ら、フル・オリジナル

理念、チームカラー、教育目標等、「岐阜の査察」を構成するキーワードが全て記載されたシンボルマークを作成中。

人材育成(理念の継承)の一策。

- GIFU INSPECTION (岐阜の査察)
- サークルをややみ出したG(今を超える)
- iron law (鉄の掟) × steel heart (鋼の心)
- speed & automation (チームカラー)
- Forefront of rescue (人命救助の最前線)
- 自立・実践・自律(教育目標と教育方針)
- 背景は岐阜を命名した織田信長(斬新、実践の象徴)

- いちいち検討会を開催したり
- ベストな答えを求めて考え込んだり
そんなゆとりは全くなかった。
- 本質を追求し
- 無駄を排除し
- とにかく、遅しく、次から次へとやってみる。
そうしなければ目標に辿り着けなかった。
あの時、「今の力+想定できる頑張り」で目標設定していたら、当時の力のまま時間をかけてそれを達成したか、異動に負けて頓座したかの、どちらかだろう。

いずれにしても、実力を現在のレベルにまで高めることは絶対にできなかった。

「今の力で達成できそうな目標」に、改革エネルギーを引き出す力はない。

本質を変えなくても、今の実力のままでも、達成できてしまう。破壊の必要性が生じないということだ。

問われる「生き方」

私たちは負け犬根性を捨て、言い訳の泥沼から這い上がってきた。

そこにあったものは、感動の職場であり、光の

⊖ 違反是正

速さで過ぎゆく日々を、生き生きと、感情豊かに働く査察プレイヤーたちの姿だった。

ハズレクジは、当たりクジになった。

崩壊しない違反処理、その先にある最終到達点は「職員が生き生きと働ける職場の創造」であり、これが市民に利益(安心・安全)をもたらすのだ。

違反処理はその手段であり、知識や技術の向上は、戦略上の副産物に過ぎない。

激動期を知る幹部のほとんどが、昨年度末に退職した。

「俺たちにできなかったことを、よくやってくれた。ありがとう」

「10年前にぼんやりと描いていた理想像が、現実のものとなって、今、目の前にある。思い残すことはない。ありがとう」

と、言ってくれた。

今問われているのは、

- 消防人(Fire Fighter)としての、
- 査察プレイヤーとしての、「生き方」なのではないか。

長く勤めた先、退職の日に、きっとそれまでの消防人生を振り返る。

その長い年月が、なんとなく面白おかしいだけのものであってはつまらない。

違反是正はドラマチックだ。

是非とも、喜びと感動を自分のものにしていただきたい。

エール

まもなく、この街から「金のかかる違反」が一旦消滅する。

当消防本部の激動期は今年度で終結し、来年度からは、向かい風が

「どうだ、定着したか？」

と、これまでの取組みの真価を問いかけてくる。

若きプレイヤーたちよ。

平成25年度の創成期、平成26～29年度の激動期を知る君たちは、この理念とイズムの数少ない継承者だ。

その誇りと使命感を持って歩んでほしい。

向かい風を揚力に変えることができるのは、君たちだ。

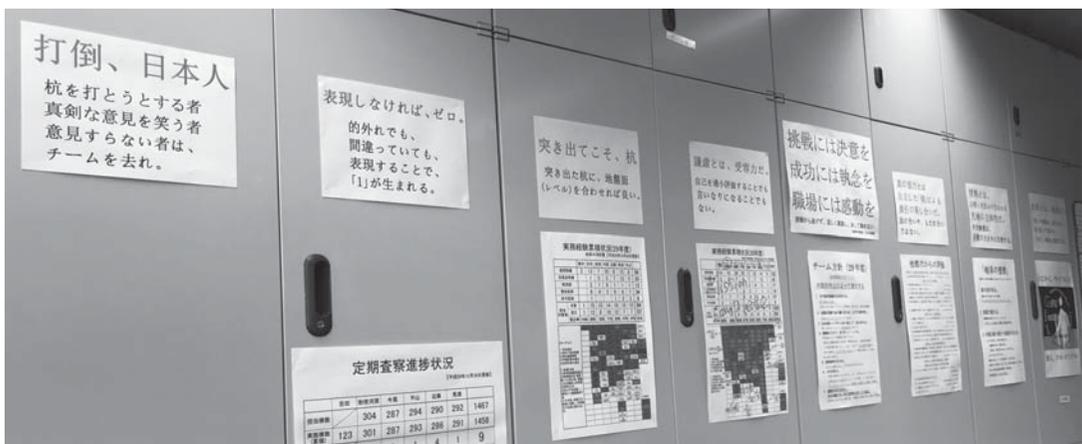
そして、この時代の端境期に直面している日本消防全ての査察プレイヤーと、消防幹部の皆様に、エールを贈る。

明日の実践、明日のファイトに。

「奮え」

挑戦には決意を
成功には執念を
職場には感動を

(了)



本稿では解説しないが、歴史への挑戦を通して至った哲学を掲示している。気風改革の一策。

1番人気は「突き出てこそ、杭」

それを打つ者はチームを去れ。我々は、草野球チームではないのだ。

これからの職場はこうありたい。そのために、日本人のマイナス要素を破壊する。

だから「打倒、日本人」

どこまでも、壮大だ。